

吉川区内でも区外でも 橋爪必勝へ支援の輪



**吉川区の定数は今回も一です
一人の代表を選ぶなら、橋爪さんだとして**

市議選の投票日は4月27日。投票日まで3か月を切りました。合併後初めて全域で行われる今度の市議選は、合併前の市町村の区域ごとに選挙区をもうけ、議席を争います。吉川区は3年前の市議増員選挙と同じく定数一、吉川区の有権者が一人の議員を選ぶ選挙となります。

今度の市議選は、吉川区の代表として、また上越市民の代表として市政をチェックするとともに、市民の暮らしを守る人を選ぶ重要な選挙戦です。

14市町村が合併して4年目。国の住民税増税や介護・医療費の負担増、市政でのごみ有料化（値上げ）、国民健康保険税の増税（の動き）などで市民の暮らしは厳しくなるばかり。また、編入された旧町村がすたれていくのではという心配も広がってきています。

それだけに、吉川区から選ばれる議員は、吉川区をはじめとする住民の願いをしっかりと市政につなぎ、その実現のために、頑張る人でなければなりません。13区などの他党派議員と力を合わす姿勢と努力も求められます。

この3年間、橋爪市議は、吉川区選出の唯一の市議として不眠不休の活動を続けてきました。まだまだ不十分なところもありますが、医療福祉、教育、農業振興、災害対策など実績はじつに豊かです。自信を持って支援の輪を広げましょう。

「協力カード」が続々到着

後援会ニュースNO8と一緒にお願いした「ご協力いただけることお聞かせください」というカードが続々と後援会事務所に返ってきています。「ニュース配布を手伝います」「自宅にポスター貼ってもいいです」「手振りします」などにマル印をつけてくださったみなさん、ありがとうございます。

「はしづめ法一」支援の輪は吉川区外にも広がり始めました。先月27日、市内で開催された日本共産党女性後援会（写真）では、「吉川にも友達がいるわよ。頼んでみるね」「テレビでいつも橋爪さんの質問を見えています。頑張ってください」などと声をかけてもらい、橋爪市議は終始ニコニコ顔でした。

雪の日も雨の日も

投票日の100日前から朝の挨拶をしようと思決意した橋爪市議。田中輪業さんの店の近くか原之町十字路のどちらかで、雪の日も雨の日も街頭から朝の挨拶を続けています。防寒着を着用し、靴下用のカイロも使って、風邪をシャットアウト。通勤者の方からの激励や通学の子どもたちとかわす朝の挨拶で元気いっぱい。相手陣営も負けれないと橋爪市議が立ちはじめた翌日からスタートしました。

橋爪のりかず後援会ニュース
発行：日本共産党吉川区後援会
2008年2月 NO 9
電話548-3628

部内資料

橋爪のりかず市議への応援メッセージありがとうございませう。まだ、たくさん寄せていただいています。次号にも掲載します。

農業分野での頑張り、頼もしい

旧吉川町農業委員会会長 小田原清三郎

橋爪さんとは長年、農業委員と一緒にやってきました。農業への深い理解と思いは市議会の場でも発揮され、とても頼もしく思っています。これからも頑張ってもらいたいです。

橋爪さんを応援します

真宗大谷派 専徳寺住職 松村公雄

夫婦で応援しています

高野幸夫（竹直）
高野博美



橋爪さんは以前から活断層のことや耐震診断のことなどを訴えておられました。今回の地震を経験して、政治は市民の命と安全を守る第一であると思いました。私たち、地域住民のために、いつそう頑張ってください。夫婦で応援しています。（写真はニリンソウ）

真の政治とは何かを示してくれた

上越市議（旧中郷村長・13区議員の会代表）
吉田 侃なおし

「雨にも負けず、風にも負けず…」宮沢賢治の代表作です。その作品の中段に「東に病気の子供があれば、行って看病してやり、西に疲れた母あれば、行ってその稲の束を負い…」とあります。

橋爪さんの議員活動は、宮沢賢治の世界です。

名立で風力発電所の羽根が落ちれば、そこへ行って調べる。吉川で崖崩れがあれば、そこへ行って調べる。何かがあれば、先ずそこへ行って調べる。

「言葉が踊るだけの政治は、政治とはいえない。真の政治は、行動であり結果である」。これは政治の現状を憂いた言葉です。

橋爪さんの議員活動は、真の政治です。

シリーズ「橋爪市議の3年間」

その① 命を守る課題で全力

橋爪さんが市議になって初の一般質問は平成17年3月24日。彼の誕生日でした。

凛（りん）とした姿での訴えは議場に響き渡りました。

「柿崎病院が県の合理化の動きの中で存続の危機にさらされている。柿崎病院は頸北地域住民にとつては、まさに命の綱。柿崎病院の存続と充実のために後援会組織を立ち上げるべきだ」との訴えに、木浦市長は

「地域の多くの皆さんの熱い思いを無にすることのないよう、関係される議員の方々とも十分連携を図って対応してまいりたい」と答えました。この質問が契機となつて後援会の再結成が実現、柿崎病院を守る運動につながりました。

この3年間、吉川区は災害が続きました。19年ぶりの豪雪、戦後最大級の梅雨前線豪雨、そして中越沖地震、橋爪市議はいつも被災者の願いを市議会できりあげ、写真やデータも使つて訴えました。災害対策では県庁や政府の関係機関にも出かけました。

市議会では「災害対策は橋爪さん」と言われるほど頑張り、冬期保安要員の確保、地震における建物被害認定の適正化、地域防災計画の見直しなどを後押ししました。



党派を超えて評価できる人

上越市議

柳沢周治（大潟区選出）

橋爪議員は、市政レポートやホームページなどを使い、実に精力的に市民への情報提供を続けています。毎回登壇の一般質問もさわやかで、思わず聞きたくなる議員の一人です。あるべき議員の姿として、党派、党派を超えてその姿勢を高く評価しています。

なお、一言付け加えておきます。地域事業費の各区削減額は、一定の基準、計算に基づいて算出されており、間違つても区の選出議員が市長と党だから野党だからなどで格差を生じるようなレベルの話ではありません。

橋爪法一 重点公約

- 妊婦健診無料券の拡大、子ども医療費充実など子育て支援を強化します。
- 県立柿崎病院の存続・強化をはかり、診療科目を充実させます。
- 介護保険料・利用料の軽減。特養入所待機者ゼロをめざします。
- 国保税は一般会計からの繰り入れで値上げにストップをかけます。
- 地域防災計画の見直しをしっかりとすすめ、災害のないまちづくりのために全力をあげます。